



## 笑顔に力をいただく

ほとんどの作業は機械化されているだけに、農機具事故は絶えない。身近でも、二、三年前になるが、愛知県で農業を営む徒弟が、乗っていた耕耘機ごと滑り落ちて重傷を負い、いまだ腕を肩から上に上げるのに不自由をかこっている。万が一にも事故を起こすことのないよう、細心の注意をお願いしたい▼農機事故を乗り越えて頑張っている群馬県の女性農業者Kさんの話しである。ある一〇〇人ほどの若手・中堅クラスの農業経営者が集まったの勉強会の後の懇親会の席でのこと。酒を酌み交わしながら情報交換や議論で大いに盛り上がったところで、締め挨拶に指名されたのがKさん。さすがと思わせる挨拶のあと、一本締めとなったが、ヨ一と発声してから、Kさんはどういわけか両手を合わせずに左手で太ももをトンと叩いて終わった。後で事務局に話を聞いて納得したが、Kさんの右手は義手なのだという▼翌日の朝食でたまたまKさんと向かい合わせになり、話をした。一〇年前に農機具に巻き込まれて右手を失ったという。その後も農業を続けており、大変ですね、との筆者の言に対して「なんとかなるものですね」とのお話し。八〇歳の母親の介護にもあたっており、「要介護度5を引き下げてほしい」という母親の頑張りに励まされているとか。法人化して三名を雇用しているそうだが、そのうちの一人である姪が後を継ぐことになり、姪には子どもがいることから、孫もできたと喜ぶ。苦難を乗り越えてきたからこそその素敵な笑顔に、逆に生きる力をいただいたのである。

(土着菌)